

資料 2. e-learning 用問題集

	問	回答 (正しいものに○を、()については当てはまる言葉を書き記入)	正答	選択肢		
				選択肢 1	選択肢 2	選択肢 3
1	(入浴介助) 入浴の可否を確認する場合、適切でないものはどれですか。	1. 利用者の体調や意向を確認する 2. バイタルサインを測定する 3. 自視などでの観察は必要ない	3	利用者の体調や意向を確認する	バイタルサインを測定する	目視などでの観察は必要ない
2	(入浴介助) 衣類を選択する場合、参考にする事項でもっとも適切なものはどれですか。	1. 周囲の利用者の衣類との調和 2. 洗濯のしやすさ 3. 体調や気候	3	周囲の利用者の衣類との調和	洗濯のしやすさ	体調や気候
3	(入浴介助) カーテンやスクリーンがない場合、タオルなどを使いプライバシーに配慮した対応をします。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
4	(入浴介助) 脱衣の際の順序で適切なものはどれですか。	1. 健側から行う 2. 患側から行う 3. 健側、患側のどちらでもよい	1	健側から行う	患側から行う	健側、患側のどちらでもよい
5	(入浴介助) 衣類の着脱に時間がかかると効率が悪いので、できるだけ介護職が着脱を行うようにします。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
6	(入浴介助) 利用者の皮膚からの刺激が左右対称になるように、身嗜みを整え、しわやたるみをつけないようにします。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
7	(入浴介助) 洗体の順序で適切なものはどれですか。	1. 手、足、頭の順 2. 抹消から中枢へ 3. まず、利用者が自分で洗える場所を洗う	2	手、足、頭の順	抹消から中枢へ	まず、利用者が自分で洗える場所を洗う
8	(入浴介助) 簡易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、転倒に注意すれば安全に入浴できます。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
9	(入浴介助) 入浴後は、体調を確認し、問題がなければすぐに居室に移動してもらうようにします。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
10	(入浴介助) 清拭の可否を確認する場合では、入浴とは異なり、バイタルサインの測定は不要です。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
11	(入浴介助) 適切な室温は何度くらいですか。	1. 26度以上 2. 22度から24度 3. 20度以下	2	26度以上	22度から24度	20度以下
12	(入浴介助) 腹部はどのように拭くのが適切ですか。	1. 臍部を中心に「の」字を描くように拭く 2. 下から上に向かって拭く 3. 左右に往復するように拭く	1	臍部を中心に「の」字を描くように拭く	下から上に向かって拭く	左右に往復するように拭く
13	(食事介助) 利用者に必ず食事をしてもらうため、少し目覚めが悪かったり、意識がはっきりしていても構いません。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
14	(食事介助) 嚥下障害のある利用者が食事がしやすくする場合、適切でない対応はどれですか。	1. 苦味や辛味の味付けにする 2. ところみをつける 3. 適温 (冷たいものは冷たく、熱いものは熱く) で配膳する	1	苦味や辛味の味付けにする	ところみをつける	適温 (冷たいものは冷たく、熱いものは熱く) で配膳する
15	(食事介助) 調理係が、利用者の禁忌状態に適した食べ物を考えて準備しているので、介護職自身は確認しません。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
16	(食事介助) 調理係が、利用者の状態に適した食べ物の形態を考えて準備していますが、介護職自身も確認しません。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
17	(食事介助) 食事がしやすい姿勢はどのような状態ですか。	1. 顎が引けている 2. 顎が上に向いている 3.	1	顎が引けている	顎が上に向いている	
18	(食事介助) 食欲がわくようになる対応として、適切でないものはどれですか。	1. 彩りのある献立にする 2. 献立や中身を説明する 3. 同じような形状、大きさの食器にする	3	彩りのある献立にする	献立や中身を説明する	同じような形状、大きさの食器にする
19	(食事介助) 嚥下を防ぐためには、しっかりと咀嚼して飲み込んだことを確認してから次の食事を口に運びます。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
20	(食事介助) 自力での摂食を促すための工夫として、適切でないものはどれですか。	1. 食器の置き方 2. 孤食 3. 自助具の用意	2	食器の置き方	孤食	自助具の用意
21	(食事介助) 利用者の食事の嗜好は個別の介護計画に記載されているので、確認は不要です。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
22	(食事介助) 食物の通過を円滑にし、胃液の分泌を促すため、水分あるいは汁物は、最初に飲むように勧めます。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
23	(食事介助) ブラッシングを自分で出来る利用者であっても、きちんと磨くため、介護職が行うようにします。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
24	(食事介助) 義歯の着脱では、義歯が利用者の口の形状に合っているため、口腔内に傷がつくことはありません。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
25	(食事介助) スポンジブラシやガーゼ等を用いた清拭では、利用者に不快感を与えないようにすばやく行います。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
26	(食事介助) 歯磨きや清拭の後は、利用者の負担を考え、口腔内の磨き残しのみを確認します。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
27	(排泄介助) 排泄の間隔はどのように確認するのがもっとも適切ですか。	1. 他の介護職への聞き取り 2. 利用者本人への聞き取り 3. 排泄状況のチェック表での確認	3	他の介護職への聞き取り	利用者本人への聞き取り	排泄状況のチェック表での確認
28	(排泄介助) 排泄介助は日常的に行うことなので、朝に説明したり、利用者の同意を得るようにすれば、その後は必要はありません。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
29	(排泄介助) 排泄する上で、利用者ができる部分を自分でやってもらうために、もっとも適切ではないのはどんな確認ですか。	1. ADLの確認 2. 意識や気持ちの確認 3. QOLの確認	3	ADLの確認	意識や気持ちの確認	QOLの確認
30	(排泄介助) トイレ (ポータブルトイレ) での排泄の際、転倒などの危険を考慮して、カーテンなどで仕切らずに介護職から見えるようにします。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
31	(排泄介助) 排泄時にはズボン、下着を下ろしますが、その都度同意を得ることはしません。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
32	(排泄介助) 排泄後、利用者に自分でトイレトベーパー等で拭いてもらった場合、清潔に関してもっとも注意すべき点は何ですか。	1. 便器の清拭 2. 利用者の手洗いの見守り 3. 介護職の手洗い	2	便器の清拭	利用者の手洗いの見守り	介護職の手洗い
33	(排泄介助) 排泄に関する記録で、もっとも適切な記録はどれですか。	1. 温度 2. 触感 3. 量や性状	3	温度	触感	量や性状
34	(排泄介助) 排泄後は、残量感や痛みなど利用者の体調確認を行います。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	

	問	回答 (正しいものに○を、()についてははまる言葉を入り)	正答	選択肢		
				選択肢 1	選択肢 2	選択肢 3
35	(排泄介助) おむつ等の交換を行う前には、尿意や便意の有無、排泄していればそのときの様子などを尋ねるようにします。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
36	(排泄介助) おむつ・パッド交換は効率よく行うことが大切なので、プライバシーの配慮もカーテンやスクリーンなどで周囲から遮るだけで構いません。	1. はい 2. いいえ ※身体にタオルをかけるなどの配慮も必要	2	はい	いいえ	※身体にタオルをかけるなどの配慮も必要
37	(排泄介助) おむつ・パッドを装着後、褥瘡の原因にならないように衣服、寝具等にさわらないように整えます。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
38	(排泄介助) 排泄時刻、排泄物の量・性状の異常については、引継ぎ時に、口頭で担当の介護職に伝えるようにします。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
39	(移乗・移動・体位変換) 起きる前には確認することで、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 前日に着用した衣類の状況 2. 利用者の疾病等 3. 室温・湿度などの室内環境	1	前日に着用した衣類の状況	利用者の疾病等	室温・湿度などの室内環境
40	(移乗・移動・体位変換) 全介助が必要な利用者の上体を起こす場合、もっとも適切なものはどのような対応ですか。	1. カーブを描くように 2. 曲がらないように 3. ひねるように	1	カーブを描くように	曲がらないように	ひねるように
41	(移乗・移動・体位変換) 無理のない起居の介助を行う場合、もっとも適切な方法はどれですか。	1. テコの原理を使う 2. 振り子の原理を使う 3. バネの原理を使う	1	テコの原理を使う	振り子の原理を使う	バネの原理を使う
42	(移乗・移動・体位変換) 介助を始める前に確認することで、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 衣類や毛布などの、暑さ寒さ対策 2. ブレーキ 3. タイヤ (駆動輪)	1	衣類や毛布などの、暑さ寒さ対策	ブレーキ	タイヤ (駆動輪)
43	(移乗・移動・体位変換) 利用者には、安全を考慮して、健側の手でベッドから近い方のアームレスト (アームサポート) をつかんでもらいます。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
44	(移乗・移動・体位変換) 利用者の健側の足を軸にして体を回転させて、車いすに移乗するようにします。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
45	(移乗・移動・体位変換) 車いすへの移乗に使用する補助具として、もっとも適切なものはどれですか。	1. スライディングボードやシート 2. 滑り止めマット 3. 固定式歩行器	1	スライディングボードやシート	滑り止めマット	固定式歩行器
46	(移乗・移動・体位変換) 車いすへの移乗介助を始める前に確認することで、もっとも適切でないものはどれですか。	1. ブレーキ 2. ハンドル 3. タイヤ (駆動輪)	1	ブレーキ	ハンドル	タイヤ (駆動輪)
47	(移乗・移動・体位変換) 移乗しやすいよう、介護職が配慮すべき事項で、適切でないものはどれですか。	1. ベッドの高さを調整する 2. 利用者の足底の接地を確認する 3. 車いすのシートの硬さを確認する	3	ベッドの高さを調整する	利用者の足底の接地を確認する	車いすのシートの硬さを確認する
48	(移乗・移動・体位変換) 移乗しやすい姿勢として、ボディメカニクスでの「重心を近づける」ようにケアを行います。適切でない姿勢はどれですか。	1. 利用者の膝折れを防ぐ 2. 利用者に介護者の肩に手をまわしてもらう 3. 利用者の体と密着させる	1	利用者の膝折れを防ぐ	利用者に介護者の肩に手をまわしてもらう	利用者の体と密着させる
49	(移乗・移動・体位変換) ベッドなどと車いすとの角度は、どの程度が適切ですか。	1. 30度から15度程度 2. 40度以上 3. ほぼ平行	1	30度から15度程度	40度以上	ほぼ平行
50	(移乗・移動・体位変換) 杖を使用している利用者の場合、介護職の立つ位置としてもっとも適切なものはどれですか。	1. 利用者の杖を持つ手と反対のやや斜め前方 2. 利用者の杖を持つ手と反対のやや斜め後方 3. 利用者の杖を持つ手の反対の真横	2	利用者の杖を持つ手と反対のやや斜め前方	利用者の杖を持つ手と反対のやや斜め後方	利用者の杖を持つ手の反対の真横
51	(移乗・移動・体位変換) 杖には「究何・バランスの補助・()」の役割・機能があり、二動作歩行や三動作歩行で()をとるような声かけを行います。	1. 支持面積の確保 2. 直立姿勢の支持 3. 歩行リズム	3	支持面積の確保	直立姿勢の支持	歩行リズム
52	(移乗・移動・体位変換) なるべく速く歩けるようになるため、利用者のペースより少し早いペースで介助・誘導を行います。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
53	(移乗・移動・体位変換) 体位変換で介護職の負担を軽減する方法にはどんなものがありますか。	1. 利用者を水平方向に移動する 2. 作業面の高さを低くする 3. 利用者との距離を離す	1	利用者を水平方向に移動する	作業面の高さを低くする	利用者との距離を離す
54	(移乗・移動・体位変換) 横向きになることができる利用者に、利用者自身の取付機能を活用してもらう理由として、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 利用者のQOLの向上 2. 利用者の自立の支援 3. 利用者の依存心の向上	3	利用者のQOLの向上	利用者の自立の支援	利用者の依存心の向上
55	(移乗・移動・体位変換) ベッドの下の方にずり落ちた場合などに発生する「摩擦」や「ずれ」が起こす問題として、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 褥瘡 2. 不眠 3. 食欲不振	1	褥瘡	不眠	食欲不振
56	(移乗・移動・体位変換) 体位変換後はクッションやタオルなどを使用して、安楽な体位を保持します。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
57	(状況の変化に応じた対応) 成人の場合、普段の呼吸の回数は1分間に何回程度ですか。	1. 10回未満 2. 12～18回程度 3. 20回以上	2	10回未満	12～18回程度	20回以上
58	(状況の変化に応じた対応) 咳は、人間の身体に細菌などの異物が入り込まないように、排出しようとするはたらきのことです。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
59	(状況の変化に応じた対応) 痰などが詰まった場合の対応の順序で、適切なのはどれですか。	1. ①強い咳を促す声かけ ②医療職への連絡 ③タッピング 2. ①タッピング ②強い咳を促す声かけ ③医療職への連絡 3. ①医療職への連絡 ②タッピング ③強い咳を促す声かけ	1	①強い咳を促す声かけ ②タッピング ③医療職への連絡	①タッピング ②強い咳を促す声かけ ③医療職への連絡	①医療職への連絡 ②タッピング ③強い咳を促す声かけ
60	(状況の変化に応じた対応) 便・尿の観察事項で、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 色や臭い 2. 触感 3. 血液の混入	2	色や臭い	触感	血液の混入
61	(状況の変化に応じた対応) 便や尿に異常 (血液の混入やバイタル値の異常など) がみられた場合、原因の探求と確認でもっとも適切でないものはどれですか。	1. 出血部位の確認 2. 薬剤の塗布 3. 医療職への連絡	2	出血部位の確認	薬剤の塗布	医療職への連絡
62	(状況の変化に応じた対応) 便や尿に異常 (血液の混入やバイタル値の異常など) がある場合の報告事項で、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 空腹の程度 2. 顔色 3. 発汗	1	空腹の程度	顔色	発汗
63	(状況の変化に応じた対応) 皮膚の状態の観察事項で、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 筋肉の硬さ 2. 乾燥状態 3. 出血	1	筋肉の硬さ	乾燥状態	出血
64	(状況の変化に応じた対応) 皮膚に異常がある場合の原因の探求と確認でもっとも適切でないものはどれですか。	1. 手指の爪 2. 衛生状態 3. 認知症の程度	3	手指の爪	衛生状態	認知症の程度
65	(状況の変化に応じた対応) 皮膚に異常 (炎症や表皮剥離、潰瘍など) がある場合の報告事項で、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 発生時期 2. 食の好み 3. キズの程度	2	発生時期	食の好み	キズの程度
66	(認知症の方がいつもと違う行動を行った場合の対応) いつもと違う行動が見られた時の対応として、もっとも適切な行動はどれですか。	1. 後ろから優しく声掛けする 2. 家族等に連絡する 3. 他者から情報を得る	3	後ろから優しく声掛けする	家族等に連絡する	他者から情報を得る
67	(認知症の方がいつもと違う行動を行った場合の対応) なぜそのような行動をしたかを確認する際、もっとも適切でない対象はどれですか。	1. 同室の利用者 2. 直前の面会者 3. 複数の職員	1	同室の利用者	直前の面会者	複数の職員
68	(認知症の方がいつもと違う行動を行った場合の対応) 収集する情報として、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 服薬状況 2. 経済状況 3. 家族関係	2	服薬状況	経済状況	家族関係
69	(利用者・家族とのコミュニケーション) 若情や相談の内容が自分に対応できないと思っても、担当者として、自力で解決を図るように努めます。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	

	問	回答 (正しいものに○を、()については当てはまる言葉を記入)	正答	選択肢		
				選択肢 1	選択肢 2	選択肢 3
70	(利用者・家族とのコミュニケーション) 解決策などを継続的に行う場合、PDCA (Plan-Do-Check-Act) を適切に実施していくことが重要です。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
71	(利用者・家族とのコミュニケーション) 家族に、利用者個々の日頃の様子などの状況を伝える方法として、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 施設便りなどの定期的な送付物 2. 家族懇談会 3. 個別の連絡帳	1	施設便りなどの定期的な送付物	家族懇談会	個別の連絡帳
72	(利用者・家族とのコミュニケーション) 意思表示の確認方法として、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 表情 2. 顔き 3. アイコンタクト	3	表情	顔き	アイコンタクト
73	(利用者・家族とのコミュニケーション) 認知症の利用者に対し、意向を確認し、介護内容を伝える方法として、もっとも適切でないものはどれですか。	1. その都度声をかけながら行う 2. 他の利用者と同じ方法で行う 3. 他職員から情報を得ながら行う	2	その都度声をかけながら行う	他の利用者と同じ方法で行う	他職員から情報を得ながら行う
74	(利用者・家族とのコミュニケーション) 視覚障害の利用者に対する意向確認の方法として、もっとも適切なのはどれですか。	1. 相手の返答を待つ 2. 耳元で大声で話す 3. 腕を引っ張る	1	相手の返答を待つ	耳元で大声で話す	腕を引っ張る
75	(利用者・家族とのコミュニケーション) 聴覚障害・聴覚の利用者に対する意向確認の方法として、もっとも適切なのはどれですか。	1. ジェスチャーを交える 2. 耳元で大声で話す 3. 紙に文字を書く	2	ジェスチャーを交える	耳元で大声で話す	紙に文字を書く
76	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 利用者や家族の意向を確認する方法で、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 年数回の聴き取り 2. 3年に1回程度のアンケート 3. 日頃の傾聴	2	年数回の聴き取り	3年に1回程度のアンケート	日頃の傾聴
77	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 利用者の心身機能、身体状況、利用者の行為・活動、健康状態の把握方法で、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 医療職に確認する 2. 利用者の日記を確認する 3. 家族に確認する	2	医療職に確認する	利用者の日記を確認する	家族に確認する
78	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 利用者を取りまくさまざまな環境や生活の特別な背景については、個人情報の保護の観点から聞き取り等は、一切行ってはならない。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
79	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 介護計画作成の際、得られた情報を整理・統合することは、あいまいな計画につながります。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
80	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 得られた情報から課題を明確にし、具体的な介護計画の作成に努めます。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
81	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 個別介護計画の目標設定の際尊重すべきものとして、もっとも適切なのはどれですか。	1. 家族の意向 2. 担当者の意向 3. 利用者の意向	3	家族の意向	担当者の意向	利用者の意向
82	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 個別介護計画は、利用者が認知症などの場合、家族のみに説明し、同意を得ることはいたしません。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
83	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) チームでケアを継続的に実践する場合の情報として必ずしも必要でないものはどれですか。	1. 医師の診察結果 2. 利用者の訴え 3. 実施した援助の結果	1	医師の診察結果	利用者の訴え	実施した援助の結果
84	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 個別介護計画の実施について適切でないものはどれですか。	1. その日の利用者の状態に応じて調整し、実施する 2. 誰でも同じ方法で実施できるようにする 3. 毎日計画通りに実施する	3	その日の利用者の状態に応じて調整し、実施する	誰でも同じ方法で実施できるようにする	毎日計画通りに実施する
85	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 個別計画に基づき利用者が車いすで散歩しました。その時の利用者や家族の満足度の把握で適切でないものはどれですか。	1. 利用者の疲労度 2. 利用者の散歩の距離 3. 利用者の表情	2	利用者の疲労度	利用者の散歩の距離	利用者の表情
86	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 個別介護計画実施後、利用者の状況の変化の把握方法について適切でないものはどれですか。	1. 介護者による観察 2. 実施結果の評価 3. 医師の診断	3	介護者による観察	実施結果の評価	医師の診断
87	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 個別介護計画の目標に対する到達度を評価する項目として、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 計画の実施状況 2. 職員の勤務状況 3. 課題の達成状況	2	計画の実施状況	職員の勤務状況	課題の達成状況
88	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 個別介護計画に関する利用者・家族への満足度や意向の確認は、作成時だけでなく、実施後も再度把握します。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
89	(利用者特性に応じたコミュニケーションができる) 課題達成できなかった場合、個別介護計画の見直しにあたっての対応として、もっとも適切なのはどれですか。	1. 代替案を立てる 2. 中止する 3. そのまま継続する	1	代替案を立てる	中止する	そのまま継続する
90	(感染症対策・衛生管理) 同じ利用者には数種のケアを連続して行う場合には、手洗い消毒又は手袋の交換は不要です。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
91	(感染症対策・衛生管理) オムツ、清拭、エプロン等感染の媒介となるものは、ベッドから離して床に置きます。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
92	(感染症対策・衛生管理) 嘔吐物、排泄物、血液等の感染源の疑いのあるものがあつた場所は、()による消毒を行います。	1. 次亜塩素酸ナトリウム (ナゲ) の希釈液 2. メチルアルコール 3. クレンザー	1	次亜塩素酸ナトリウム (ナゲ) の希釈液	メチルアルコール	クレンザー
93	(感染症対策・衛生管理) 感染症を疑われる利用者や罹患した利用者に対応する場合でも、汚染したリネンの交換にはマスクは不要です。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
94	(事故発生防止) ケアを実施し、「事故には至らなかったがヒヤッとしたこと」「ハッとした気づき」があつても、利用者の実害がなければ記録には残さないようにします。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
95	(事故発生防止) ヒヤリハットの対応策 (予防策) を検討するには、「状態を観察する力を養成する」ことが重要です。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
96	(事故発生防止) 対応策を検討するチームには、医療職を加えることが重要です。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
97	(事故発生防止) 事故発生時の状況について報告する場合、SWI H (いつ、どこで、誰が、何を、何故、どのような) を考慮して伝えますが、「誰に」は必要ありません。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
98	(事故発生防止) 再発防止策などを継続的に行う場合、全員が関与するので、特に責任者を定めません。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
99	(事故発生防止) 事故報告書は、当該施設・事業所に特有のもので、他の施設・事業所の対応の参考にはなりません。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	

問	回答 (正しいものに○を、()については当てはまる言葉を入力)	正答	選択肢			
			選択肢1	選択肢2	選択肢3	
100	(身体拘束廃止) 身体拘束は、業務上必要なことであり、それ以外の方法がないのであれば、致し方ないと思う。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
101	(身体拘束廃止) 身体拘束をなくしていくための方法として、もっとも適切なものはどれですか。	1. 他職種への報告 2. 原因の追究と除去 3. 薬剤の処方	2	他職種への報告	原因の追究と除去	薬剤の処方
102	(身体拘束廃止) やも得ず身体拘束を行った場合でも、背景や原因を明確にし、できるだけ速やかに、環境的配慮など拘束以外方法を講じます。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
103	(身体拘束廃止) 緊急やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合は、現場の判断で実施してもかまわない。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
104	(身体拘束廃止) 身体拘束を行った場合、必要な記録としてもっとも適切でないものはどれですか。	1. 拘束時間 2. 拘束形態 3. 看護師の指示	3	拘束時間	拘束形態	看護師の指示
105	(終末期ケア) 介護者として終末期の利用者に関して、把握すべき事項で、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 余命告知の有無 2. ADL 3. 遺言書の有無	3	余命告知の有無	ADL	遺言書の有無
106	(終末期ケア) 終末期の利用者に対しては、比較的精神的な余裕があるうちに、看取りの場所等の希望を把握しておきます。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
107	(終末期ケア) 終末期にあたっては、状況によって、利用者や家族の希望に添えなくても同意の必要はない。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
108	(終末期ケア) 終末期に利用者に関りうる症状について把握し、その場合の対応を確認していますか。	1. はい 2. いいえ	1	はい	いいえ	
109	(終末期ケア) 利用者の痛みやそのほかの不快感や身体症状の変化への対応として、もっとも適切なものはどれですか。	1. 救急車の手配 2. 指示された薬の服用 3. カンファレンスの実施	2	救急車の手配	指示された薬の服用	カンファレンスの実施
110	(終末期ケア) 他職種との情報共有の手段として、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 口頭連絡 2. 介護記録 3. カンファレンス	1	口頭連絡	介護記録	カンファレンス
111	(地域包括ケアシステム) 地域包括ケアの仕組みにおいて、地域内で活用する社会資源としてもっとも適切なものはどれですか。	1. 地域ケア会議 2. 町内会 3. 商店街	1	地域ケア会議	町内会	商店街
112	(地域包括ケアシステム) 地域包括ケアの仕組みでは、利用者等からの相談や問題状況などの情報を、誤りなく関係する他部門や他機関と共有するには、()が適切です。	1. 文書化 2. 会議を開催 3. 電話連絡	1	文書化	会議を開催	電話連絡
113	(地域包括ケアシステム) 施設内・事業所内では他職種などの連携は行いますが、地域包括ケアの仕組みでは、自分と関連する専門職の集まりに参加します。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
114	(地域包括ケアシステム) 関連する他機関との連携や他職種との関係では、「顔の見える関係づくり」として、もっとも適切なものはどれですか。	1. 定期的な研修会の開催 2. 地域の防災訓練への参加 3. 合同バザーの開催	1	定期的な研修会の開催	地域の防災訓練への参加	合同バザーの開催
115	(リーダーシップ) 職員の育成計画の立案に関して、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 個々のスキルに加えて取組意識も確認して立案している。 2. 個々の取組意識を重視して、育成計画を立案している。 3. キャリアプランに応じて立案している。	2	個々のスキルに加えて取組意識も確認して立案している。	個々の取組意識を重視して、育成計画を立案している。	キャリアプランに応じて立案している。
116	(リーダーシップ) 自己研鑽に関して、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 自己のキャリア・プランに応じた範囲の研修なので、上司と相談せずに研修を受講している。 2. 自己のスキルアップや研鑽のための研修が重要なので、組織の方針などに沿ったもの以外を受講することとしている。 3. 自己研鑽のための研修なので、気が付いた時だけ、同僚や上司に対して受講内容を報告している。	2	自己のキャリア・プランに応じた範囲の研修なので、上司と相談せずに研修を受講している。	自己のスキルアップや研鑽のための研修が重要なので、組織の方針などに沿ったものを受講することとしている。	自己研鑽のための研修なので、気が付いた時だけ、同僚や上司に対して受講内容を報告している。
117	(リーダーシップ) ローテーション(シフト)を組み合わせることで、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 年次休暇の取得 2. 週の法定労働時間 3. スタッフの家族の都合	3	年次休暇の取得	週の法定労働時間	スタッフの家族の都合
118	(リーダーシップ) 各スタッフとの面談の機会に関して、もっとも適切なものはどれですか。	1. 定期的に面談の機会をつくり、要望悩みを聞き取っているが記録はしていない。 2. 定期的に個別面談の機会をつくり、組織側の方針や考え方を伝達している。 3. スタッフの顔色や態度を見ながら、必要に応じて不定期に個別面談をしている。	2	定期的に面談の機会をつくり、要望悩みを聞き取っているが記録はしていない。	定期的に個別面談の機会をつくり、組織側の方針や考え方を伝達している。	スタッフの顔色や態度を見ながら、必要に応じて個別面談をしている。
119	(リーダーシップ) スタッフの体調の把握に関して、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 利用者と共にスタッフの顔色や態度も観察するようにし、変化を捉えるよう心がけている。 2. スタッフには、日頃からの観察に加えてコミュニケーション(話し合い)の機会を作っている。 3. スタッフは「身体が資本」なので、体調などは自らの責任で管理するよう常日頃から指導している。	3	利用者と共にスタッフの顔色や態度も観察するようにし、変化を捉えるよう心がけている。	スタッフには、日頃からの観察に加えてコミュニケーション(話し合い)の機会を作っている。	スタッフは「身体が資本」なので、体調などは自らの責任で管理するよう常日頃から指導している。
120	(リーダーシップ) 期首のスタッフの目標設定に関して、もっとも適切でないものはどれですか。	1. スタッフとの期首面談で、スタッフと上司の期待値を話し合っ調整した後、目標を設定した。 2. スタッフとの期首面談で、上司から部門目標に沿った目標を指示し、納得してもらった。 3. 期首面談の時間が十分取れなかったため、事前に文書で組織側が期待する目標を提示した後、スタッフの意見を聞きながら目標を設定した。	2	スタッフとの期首面談で、スタッフと上司の期待値を話し合っ調整した後、目標を設定した。	スタッフとの期首面談で、上司から部門目標に沿った目標を指示し、納得してもらった。	期首面談の時間が十分取れなかったため、事前に文書で組織側が期待する目標を提示した後、スタッフの意見を聞きながら目標を設定した。
121	(キャリア段位制度について) 介護分野は3K(きつい、きたない、危険など)といわれており、「衰退産業」と見られています。	1. はい 2. いいえ	2	はい	いいえ	
122	(キャリア段位制度について) キャリア段位制度により職員が受ける変化として、もっとも適切でないものはどれですか。	1. 休日が取得しやすくなる 2. やりがいや処遇の改善につながる 3. 転職の際のデメリットが軽減される	1	休日が取得しやすくなる	やりがいや処遇の改善につながる	転職の際のデメリットが軽減される
123	(キャリア段位制度について) キャリア段位制度により施設や事業所が受ける変化として、もっとも適切でないものはどれですか。	1. サービス水準をアピールできる 2. 就業時間を短縮できる 3. 定着率の向上につながる	2	サービス水準をアピールできる	就業時間を短縮できる	定着率の向上につながる
124	(キャリア段位制度について) 「一人前」の仕事ができると評価されるのはレベル()の人です。	1. 3 2. 2-2 3. 2-1	1	3	2-2	2-1
125	(キャリア段位制度について) 評価を行う人は()と呼ばれます。	(自記式)	-	アセッサー		